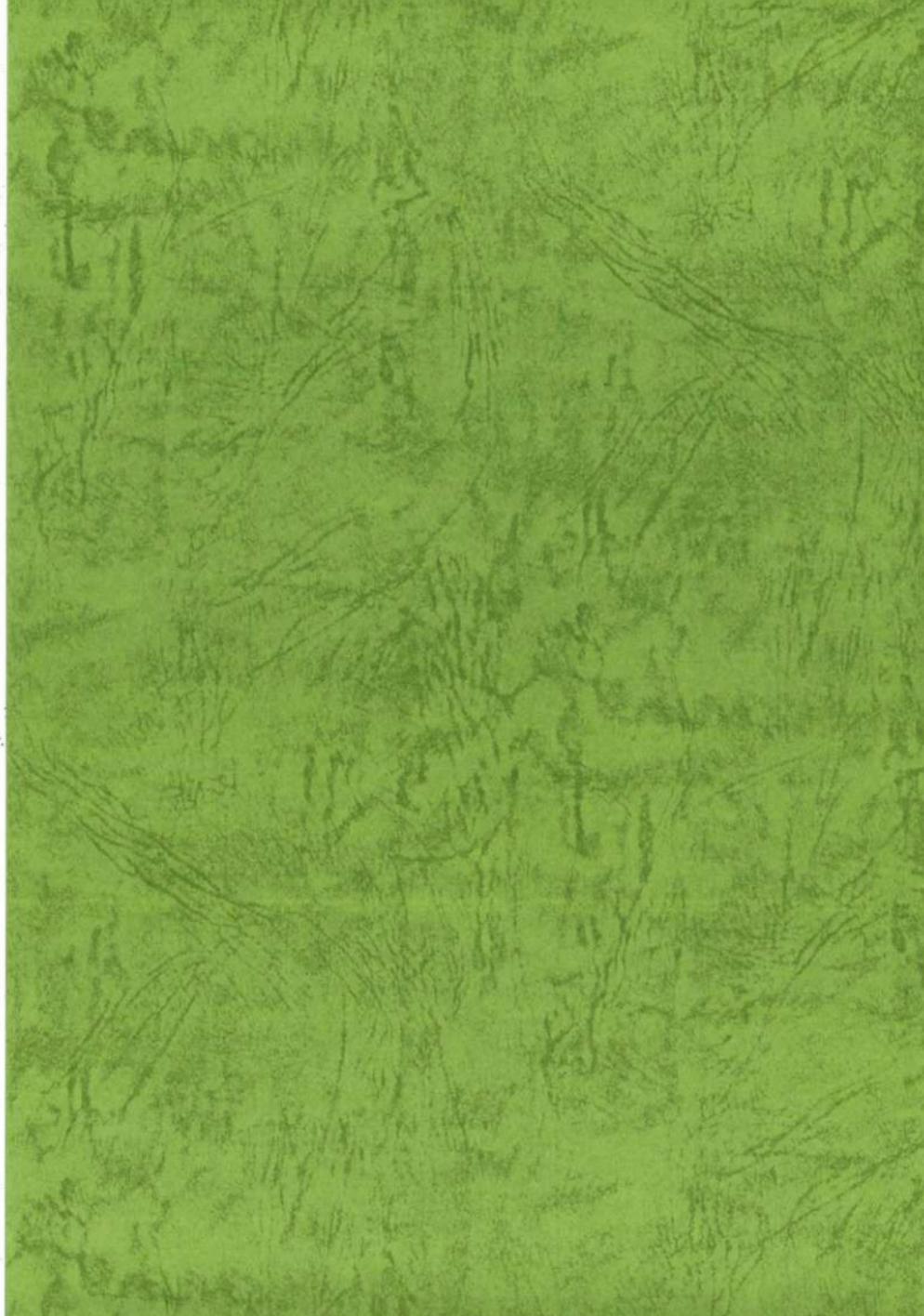


下新田中沖II遺跡

民間宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



序

前橋市は上毛三山や、浅間・谷川連峰など四囲の名山を望むことのできる前橋台地を市域としています。詩情豊かな自然の中で県都として発展してきた町であります。またこの地は古代から上野国の政治・経済・文化の中心地として発展してきました。

下新田中沖II遺跡は前橋市市街地中心部から3km程の高崎市大沢町・同萩原町に接する位置にあります。かつては四季折々の田園風景が広がっていましたが、現在は宅地化の拡大が進み、住宅街の中に残る水田の一角になっています。

発掘調査は民間の宅地造成工事に関わる道路建設に先立って行われたものです。発掘調査によって西暦1108年浅間山の噴火による火山灰で埋没した平安時代の水田跡が発見されました。南北方向に走行する畦畔の中から大畦畔と考えられる畦を検出しました。しかしこの畦と直交する東西方向の大畦畔は残念ながら検出しておりません。近隣遺跡の発掘成果との関連から本遺跡が「条里制」の解明や地域史再現の資料として少しでも役立つことを願っています。

発掘調査に当たりご理解とご協力を頂いた事業者の株式会社北群馬土地 代表取締役角田八也氏をはじめとする関係の方々に厚く御礼申し上げます。

平成10年7月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 渡辺勝利

例　　言

- 1 本報告書は、民間宅地造成工事に伴う下新田中冲II遺跡発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地　群馬県前橋市下新田町262番地他
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 渡辺勝利）の指導のもとに委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永眞弘）が実施した。
- 調査担当　古屋秀登・眞塩明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
神津芳夫（スナガ環境測設株式会社）
- 調査員　岡田あゆ美（　〃　）
山口和宏（　〃　）
- 4 発掘調査期間　平成10年4月6日～平成10年5月15日
整理期間　平成10年5月16日～平成10年7月10日
- 5 調査面積　1,485m²
- 6 出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。
- 7 測量・調査計画…須永眞弘、測量・実測…板垣宏・権田友寿・岡田あゆ美・山口和宏、写真撮影…神津芳夫・荻野博巳、安全管理…神津芳夫、表土掘削作業…都丸保男、作業事務…柴崎信江が担当した。
- 8 本書は、調査団の指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆を神津芳夫、編集・校正…須永眞弘、実測図の整理他…岡田あゆ美・山口和宏、内業事務…須永豊が担当した。
- 9 発掘調査に参加した方々（五十音順）
石川サワ子　石田みよ子　今井つる　内山恵美子　狩野宮子　桑島英彰　小林ひろ
齊藤ミヨ子　高橋あき　都丸藤子　中川住一　根井よし子　山崎勘治

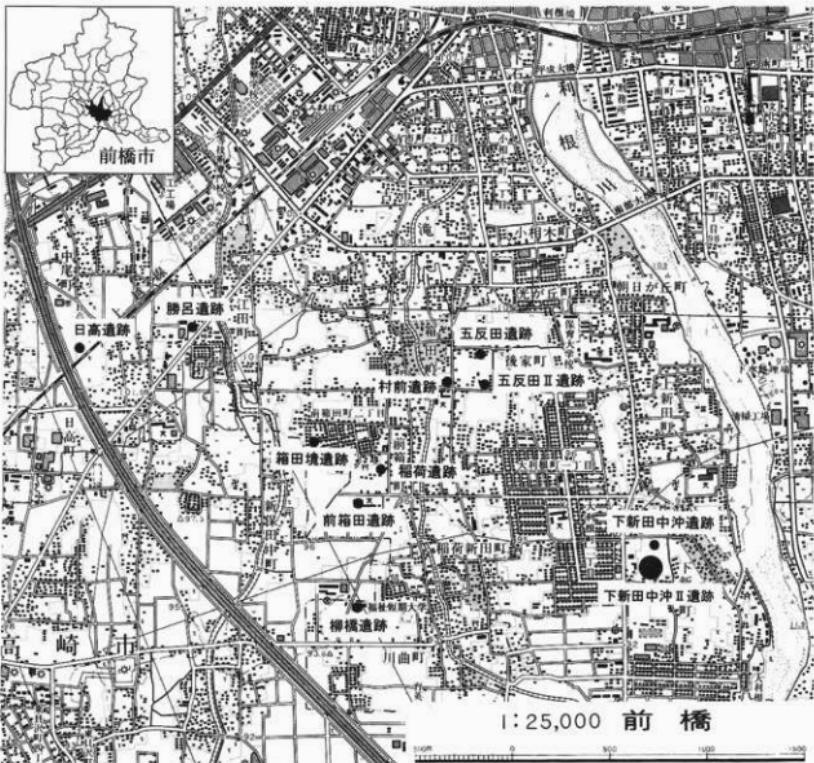
凡　　例

- 1 本遺跡の略称は10A-83である。
- 2 遺構名・略称　畦畔…A、土坑…D、溝…W、石…S
- 3 実測図の縮尺　遺跡平面図1/100、1/400　土層断面図1/40
- 4 押入図は、国土地理院発行の25,000分の1「前橋」を使用した。
- 5 遺跡の位置の基準　国土地理院三角点及び水準点を照合済。
国土地理院の2級基準点第11号、第513号から遺跡の北西地点にA-0点を測設した。
- 基準点 A-0 地点 第IX系座標値 X39,660.000m Y-68,800.000m
- 水準点 BM.1・2 92.00m、BM.3 91.50m 等高線5cm、グリッド4m間隔
- 6 土層断面の土色名は「新版標準土色帖」（農林省農林水産技術会事務局 監修 財團法人 日本色彩研究所 色標監修）による。
- 7 土層注記及び本文中には、As：浅間山、Hr：榛名山の略称を使用した。
- 8 断面図のB軽石下水田土壤部分…■■■を使用。
- 9 遺構の面積は、平面図による座標面積計算により算出した。

目 次

挿 図

序	第1図 下新田中沖II遺跡周辺遺跡図
例 言	第2図 下新田中沖II遺跡周辺図..... 1
凡 例	第3図 発掘作業経過図..... 2
目 次	第4図 基本土層断面図..... 3
I 調査に至る経緯..... 1	第5図 調査区画図..... 3
II 遺跡の位置と歴史的環境..... 2	第6図 大畦畔検討図..... 3
1. 遺跡の立地 2. 歴史的環境	第7図 現況図 (10m方格) 9
III 調査の経過..... 2	第8図 11~13号水田実測図..... 11
1. 調査方針 2. 調査経過	第9図 セクション・エレベーション図..... 12
IV 層 序..... 3	第10図 6・7・14~16号水田実測図..... 13
V 造構と遺物..... 3	第11図 下新田中沖II遺跡平面図..... 15
1. 1区の水田跡 4. 4区の水田跡	
2. 2区の水田跡 5. 溝と土坑	
3. 3区の水田跡 6. その他	
VI まとめ..... 8	写真図版
	図版1・図版2・図版3..... 17

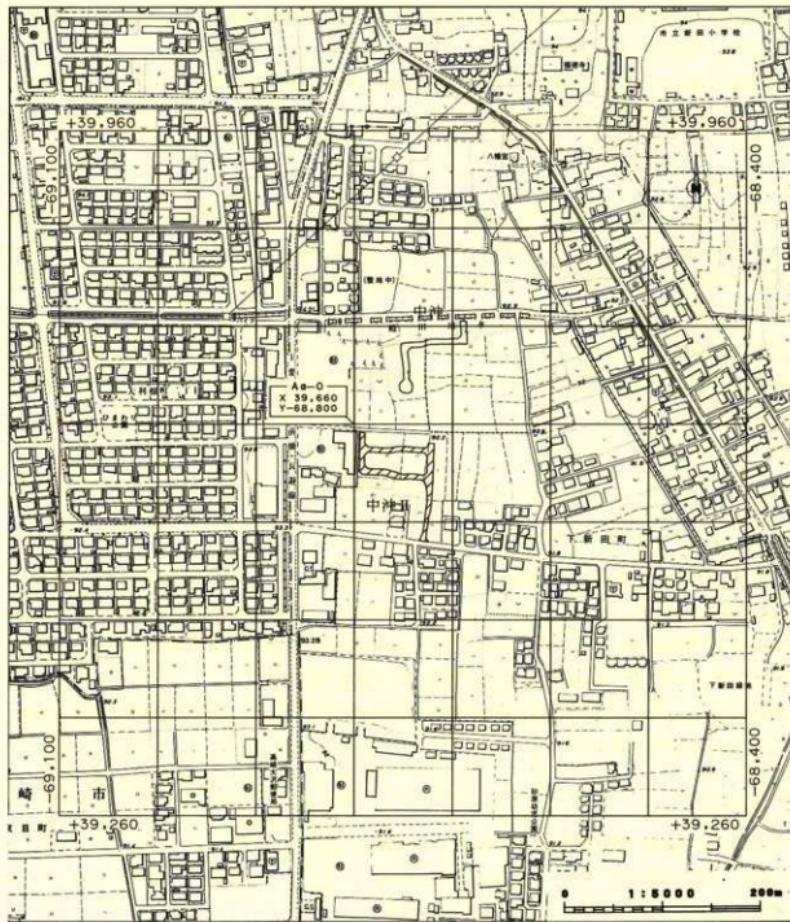


第1図 下新田中沖II遺跡周辺遺跡図

I 調査に至る経緯

民間の宅地造成工事の申請に伴い、前橋市教育委員会文化財保護課と開発行為者と協議検討を行い、トレンチによる試掘調査を行ったところ、As-B鉄石層下に平安時代の水田遺構の存在が確認された。このため開発地内の道路用地全面の発掘調査を実施して、記録保存することになった。

発掘調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもとに、開発事業者である株式会社北群馬土地代表取締役角田八也氏と同調査団を立会人として民間調査機関であるスナガ環境測設株式会社が委託契約を締結し、実施することとした。



第2図 下新田中沖II遺跡周辺図 (国家座標による100m方格)

II 遺跡の位置と歴史的環境

1. 遺跡の立地

下新田中沖II遺跡は、前橋市市役所から南約3.5kmの主要地方道前橋・長瀬線と利根川に挟まれた前橋市下新田町字中沖262番地他に所在する。本遺跡の東方約500mは利根川が南流し、西方約200mには大利根団地の住宅街が連なり、さらにその西側約500mに滻川が南流している。この滻川は建設大臣の管理する一級河川であるが、その水利権は天狗岩用水組合にある。近世初め頃に開発され、現吉岡町の利根川から導水され利根川右岸一帯の前橋市、高崎市、玉村町の一部に灌漑用水として地域の生活を支えてきた河川である。この滻川から小相木町で分流された殿田用水が当遺跡の北側110mのところを東に流れている。南方はわずか100m余りで大利根第二団地、高崎市大沢町、同萩原町に接している。

遺跡周辺の地形は、標高92.0m前後で、現況水田の広がりや水路の配置等から考察すると、東方向にわずか傾斜していると窺われる程度でほぼ平坦地である。

2. 歴史的環境

本遺跡の立地する前橋台地は、古代から水田が営まれた地域である。滻川と染谷川を隔てた西方3kmの高崎市域にある日高遺跡は、本県における水田研究の端緒となった遺跡である。また周辺には本遺跡と同時代の平安時代末期の水田跡が検出された勝呂遺跡、村前遺跡、五反田遺跡、五反田II遺跡、箱田境遺跡、前箱田遺跡、柳橋遺跡、稻荷遺跡、下新田中沖遺跡などが存在する。

本遺跡の北西方向約3.8kmには、奈良・平安時代の上野国(現在の群馬県)の政治的・文化的中心地としての推定国府城が存在する。従って、前記の周辺水田遺跡とともに本遺跡も律令経済を支える基盤として、重要な水田地帯であったと考えられる。

III 調査の経過

1. 調査方針

市教委の試掘調査結果をもとに発掘調査を実施した。調査区の設定は、公共座標に基づき大グリッド(A・B区100×100m)を設定し、その内に4m毎に小グリッドを設定した。東西方向に延びる調査区を算用数字で、南北方向に延びる調査区をアルファベットでAa…Ayとし、100mを越えた場合Ba…Byと呼称し、グリッドの呼称は北西隅の名称を使用した。また水準は、公共水準点に基づき調査区内に測設した。

図面作成は、1/20、1/40、1/200の縮尺を使用し細部測量で作図を行った。遺構・遺物等の写真撮影(白黒・リバーサルフィルム)も行った。

2. 調査経過

4月13日から重機類・資材の搬入、休憩所・トイレの設置及び電話・電気工事等を行った。4月16日から重機による表土掘削と構造確認を並行して行った。4月21日から水田面の精査を実施し、5月14日に完了した。この間に作業の進行状

作業	月			
	4月	5月	6月	7月
表土掘削・構造確認				
精査仕上げ・写真撮影				
測量				
整理作業				

第3図 発掘作業経過図

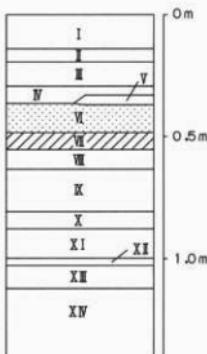
況に従い写真撮影を行った。4月22日公共座標に基づく基準点測量を行い基準点・BM・グリッドの設定をし、4月28日から遺構の平面測量を開始して5月14日に完了した。5月15日設備・重機類を撤収し発掘作業を終了した。5月16日から整理作業に入った。

IV 層序

基本土層は右図のとおりである。VI層がAs-B軽石層でその直下のVII層が平安時代末期の水田跡の土層である。

土層注記

- I 灰褐色土
- II にぶい黄褐色土
- III にぶい黄褐色土 A軽石10%含む
- IV にぶい黄褐色土 A軽石を含まない
- V 暗褐色土
- VI As-B
- VII 黒褐色土 (B下水田土壤)
- VIII 赤灰色土 粘性あり
- IX 灰黄色土 弱粘
- X 淡黄色土 Hr-FA・FP洪水層
- XI 暗灰色 粘性あり
- XII 黒色粘質土
- XIII 暗灰色粘質土
- XIV 灰白色土 C軽石含む



第4図 基本土層断面図

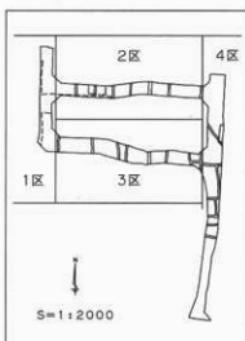
V 遺構と遺物

平安時代の1108年(天仁元年)に起こった浅間山の噴火による降灰と軽石(As-B)によって埋没した水田跡22面を検出した。この調査区域は、道路建設部分で調査地が細長であるため右図のように4区に分けて報告する。1区から4区で検出した水田の標高は、91.00m~91.45mの範囲にある。

水田番号等は、全体の通し番号にした。水田土壤について2・3区は1区と同じにつき省略した。

1. 1区の水田跡

中央部と西側に搅乱があり、中央部搅乱の北側に1号水田、南側に8号水田の2面を検出した。



第5図 調査区画図

(1) 水田の形状と水田面

ア. 形 状

1号、8号水田とも水田を区画する畦畔が不明瞭なため形状の判断はできない。

イ. 水 田 面

1号水田は、北部分がやや湿地気味で足跡・小穴が集中している。8号水田は、小穴が散見される状態である。1区の水田面の標高は、約91.45mで平坦地である。

搅乱は、壁面（第9図：セクションD）から考察するとAs-Bを取り除いたとみられる痕跡がある。また、As-Bを除去する際、B下水田の耕作土まで搔き取った様子も窺える。Aj-2からAk-2グリッドにわたるAs-B除去面は、B下水田土壤直下の土層が現れて凹凸があり、B下水田と同じような様相を呈している。この面の標高は、約91.40mでB下水田面よりも5cm程度低い。As-Bを取り除いた時期を確定する資料は乏しい。

出土遺物は、この面に洪水時に流れ込んだと考えられる土師器の小片2点と近世の物と見られる碗の底部片1点である。遺物に新しい物があることと壁面のセクションの土層に亂れがないことから現在の水田開発に関係しAs-B層とともにB下水田土壤までを動かしたと考えるのが妥当ではないだろうか。

(2) 畦畔と水口

確認できなかった。

(3) 水田土壤

耕作土は、厚さ約5cmの黒褐色粘質土で水稻栽培に適した土壤である。

(4) 遺 物

1号水田内に土師器の小片1点と搅乱内（As-B除去地）に土師器片2点、陶器片1点の計4点を検出した。

2. 2区の水田跡

1区からの1号水田部分と2号から6号水田までの5面を検出した。標高は西側91.35m、東側91.15mとなっている。

(1) 水田の形状と水田面

ア. 形 状

調査地は、幅員約5m、延長約60mで南北の畦畔に区切られた部分的な水田である。東西方向に走行する畦畔の検出がないので水田区画の形状を判断することは困難である。

イ. 水 田 面

1区から連なる1号水田と2号から6号水田まで6面の水田が続いている。水田面の標高は、2・3号水田91.35m、4号水田91.30m、5号水田91.25m、6号水田91.20mを計測し西から東へ傾斜している。水田面は、約5cmの比高差を持って畦畔により区画されている。2号水田と6号水田の比高差は15cm、距離は44m余りで勾配は約3/1000である。

水田面は、足跡・小穴等の凹地がまばらに見られる程度であるが、3号水田は凹凸の起伏がある。

ウ. 畦畔と水口

南北に走行する1号～6号まで6畦を検出した。座標軸とのずれは僅少であった。このうち4号畦畔は幅、高さなどの規模から大畦畔と考えられる。

検出した畦畔は、押し潰された扁平な台形状を呈しているが、遺存状況は概ね良好である。畦畔の築造状況を調べるために2・3・4号畦畔を断割した結果、B下水田の下層部を削って畦畔の原形を作り、B下水田の耕作

土をその上に塗り固めて畦畔を築造している状態が判った。畦畔の作設位置は、水田区画の規模・地形・水流方向を勘案して決めたと思われる。

なお、2区では水口の確認はできなかった。

3. 3区の水田跡

1区の8号水田の一部と9号から15号までの7面を検出した。水田面の標高は、西側の1区の8号水田部分が91.45m、東側の14・15号水田面が91.10m前後となっている。

(1) 水田の形状と水田面

ア. 形 状

調査地は、幅員約6m、延長約60mの範囲内で南北に走行する畦畔に区切られた水田7面がある。東西に走行する畦畔は、1畦だけで水田面区画の形状判定は難しい。

イ. 水 田 面

1区の8号水田に続き東方向に9号から15号水田の7面が続いている。9号水田は、標高91.40mで水田面上に小穴がまばらにある。10号水田は、標高91.35mで水田面に小穴と方向性不明な足跡が確認された。11号水田は、標高91.30mで水田面に小穴がまばらに見られた。12号水田は、標高91.20～91.25mで水田面に方向性は明らかでないが足跡が確認された。13～15号水田は、標高91.10～91.15mで水田面に小穴がまばらに見られた。13号水田は、小穴の他に足跡が列状にあるが方向性は不明である。

水田面は、西側の8号水田から東側の14・15号水田までの距離約52m、比高差25cmを計測し、勾配は5/1000となり東方に傾斜している。

(2) 畦畔と水口

南北に走行する畦畔7～11・13・15・17・18号の9畦と東西に走行する畦畔14号の10畦を検出した。いずれの畦畔も座標軸とのすれば僅かである。このうち10号畦畔は、幅、高さなどの規模から大畦畔と考えられるものである。検出した畦畔はいずれも押し潰された扁平の台形状を呈しているが、遺存状況は概ね良好である。畦畔の作設位置は、2区と同様に水田区画の規模・標高と傾斜方向を勘案して決めたと思われる。また、11号水田中央部からやや東により、浅い溝状の条痕2条を検出したが、その原因、用途は不明である。

なお、3区で水口の確認はできなかった。

4. 4区の水田跡

北側の7号水田から南北方向100mの間に16号から22号水田まで8面の水田を検出した。水田面の標高は、7号水田を除き91.10m前後となっている。7号水田は、標高90.90m～91.00mと他の水田面より水田面が15cm程度く窪地状を呈している。

(1) 水田の形状と水田面

ア. 形 状

17号水田は、東西南北の四辺に畦畔があるので、南北に長軸を持つ長方形の水田と見られるが、その他の16号から22号水田については、形状の判断はできない状態である。なお、22号水田については、南側部分で畦畔が確認できなかつたため細長な形になっている。

イ. 水 田 面

7号水田から南に向かって16号から22号水田まで8面ある。水田の標高は、概ね91.10m前後でほぼ平坦である。

水田面の様相は7号水田と16号水田を除き小穴と足跡がまばらに見える程度である。7号水田と16号水田は、湿地状で、特に7号水田は北部分が落ち込んで窪地になっている。この二面の水田面は、人の足跡や牛馬の足跡が重複し深く踏み込まれている。このような足跡の列が7号水田と16号水田を南北に横切った形になっている。この列状の足跡と並行して約3mの範囲内に小穴や足跡が集中して続いている。水田面は踏み荒らしたという感がある。

22号水田の西壁部分に溝状の窪地があるが、壁の西側に現在の水路があることから、この水路の流路変更の跡と考えられる。

(2) 畦畔と水口

南北に走行する畦畔12・20・22号の3畦と東西に走行する畦畔16・19・21・23・24号の5畦の計8畦を検出した。12号畦畔は座標軸から大きく西偏しているが、ほかは大幅なずれはない。畦畔の形状は、押し潰された扁平な台形状をしている。しかし、21号畦畔とこの南側部分にある22・23・24号畦畔の遺存状況は、悪い状態であった。

なお、4区においても水口は確認できなかった。

(3) 水田土壤

耕作土は、5cm前後の黒褐色粘質土で水稻栽培に適した土壤である。ただし、22号水田の土壤は粘性が少なく、細砂を含み粘性が低い土壤である。

(4) 遺物

水田面に流れ込んだ遺物7点を検出した。16号水田で土師器片1点、21号水田で土師器片3点・陶器片1点・石（石英片）1点、22号水田で陶器片1点。

水田跡計測表

水田No	面積 (m ²)	東畦 (m)	南畦 (m)	西畦 (m)	北畦 (m)	備考
1	135.40	5.08	—	—	—	複乱あり
2	30.74	4.24	—	5.08	—	複乱あり
3	28.51	5.20	—	4.24	—	B輕石下水田下調査区域あり
4	72.43	5.28	—	5.20	—	W-1に切られる 東が大畦畔
5	34.07	5.08	—	5.28	—	西が大畦畔
6	63.23	5.04	—	5.08	—	
7	174.39	—	10.00	5.04	—	足跡多数
8	82.46	6.52	—	—	—	複乱あり
9	79.58	6.24	—	6.52	—	
10	64.25	6.92	—	6.24	—	
11	73.75	5.00	—	6.92	—	W-2に切られる 東が大畦畔
12	30.75	5.08	—	5.00	—	西が大畦畔
13	47.78	5.24	—	5.08	—	
14	11.79	4.05	3.40	4.00	—	
15	5.36	2.80	—	1.24	4.10	
16	81.74	—	9.11	4.05	10.00	足跡多数
17	69.61	13.66	4.80	2.80	6.45	
18	8.66	—	0.40	13.66	1.96	
19	20.07	7.32	3.40	—	3.20	
20	7.25	—	1.00	7.32	2.00	
21	35.18	—	4.72	—	4.40	W-3に切られる
22	143.44	—	—	—	4.72	

*面積は検出部分の計測値である。

畦畔断面計測表

N・S・E・Wは畔位置 単位:cm

No	グリッド	上端幅	下端幅	畦の高さ				走行方向	No	グリッド	上端幅	下端幅	畦の高さ				走行方向
				N	S	E	W						N	S	E	W	
1	Ag-4・5	43	83	—	—	3	1	N—2—E	13	An-16	29	63	—	—	2	1	N—10—W
2	Ag-6・7	39	75	—	—	4	1	N—2—E	14	An・Ao-17	48	84	3	1	—	—	N—88—E
3	Ag-8・9	45	80	—	—	4	2	N—2—W	15	An-17・18	41	78	—	—	2	2	N—0—E
4	Ag-12	78	135	—	—	4	4	N—3—E	16	An・Ao-18	—	83	—	—	—	—	N—85—W
5	Ag-14	36	75	—	—	3	2	N—1—E	17	Ao-16・17	49	70	—	—	1	1	N—10—W
6	Ag-17・18	43	82	—	—	4	2	N—7—E	18	Ao-17・18	—	68	—	—	—	—	N—7—E
7	Al-3	35	68	—	—	2	2	N—2—E	19	An・Ao-19	—	81	—	—	1	—	N—84—E
8	Am-6	23	75	—	—	3	2	N—0.5—W	20	Ap-19	28	69	—	—	3	1	N—5—W
9	Am-9	—	82	—	—	2	—	N—5—W	21	Ar-18	—	67	—	—	—	—	N—86—E
10	An-12	71	118	—	—	2	3	N—3—W	22	As-19	—	60	—	—	—	—	N—4—W
11	An-14	35	77	—	—	1	2	N—4—E	23	At-18	—	70	—	—	—	—	N—88—W
12	Al・Al-19	40	67	—	—	2	2	N—37—W	24	Av-19	—	73	—	—	—	—	N—80—W

5. 溝と土坑

(1) 溝

2区の4号水田内(Ag-10グリッド)にW-1、3区の11号水田内(An-10グリッド)にW-2、4区の21号水田内(An-19グリッド)にW-3の3条の溝を検出した。

W-1とW-2は、As-B層を切って掘り下げている。溝内堆積土層にAs-Bが混入しているので近世の溝と考えられる。

W-3は、現耕作土直下を掘り下げている。堆積土は現耕作土と類似する層であることから現代の溝を埋めた跡と考えられる。遺物は、W-2から土師器片、近世陶器片(茶碗)、瓦質土器片(焰烙)が各1点出土した。

(2) 土坑

12号水田内(Am-n-12グリッド)でD-1、16号水田内(Al-18グリッド)でD-2が検出された。D-2内には、安山岩質の石

溝計測表

No	長さ (m)	深さ (cm)	底のレベル (m)	勾配 (%)	溝幅 (cm)	水路 方向	溝の位置 (グリッド)	堆積土層
W-1	5.16	N 9 S 13	N91.18 S91.15	0.58	上42~60 下14~28	N→S	Ag-10~ Ah-10	As-Bの混土
W-2	6.70	N 18 S 17	N91.10 S91.07	0.52	上65~85 下25~40	N→S	Am-10~ An-19	II
W-3	4.60	N 12 S 13	N90.86 S90.91	1.09	上40~60 下10~30	N→S	Au-18~ Au-19	現耕作土

があった。2基の土坑はいずれも水田面を深く掘り込んでいる。土坑内の堆積土は、As-Bより上の土層と同様の褐色土や、As-Aの混入した土であることから近世の遺構と考えられる。

6. その他

平安時代水田下の第2面の遺構確認のため2区の2号水田から3号水田内で、東西7m、南北3.6mの25.2m²を掘り下げ調査したが遺構の存在は認められなかった。また、7号水田内の深掘りの断面調査でも遺構は存在しなかった。

遺物は土師器片7点を検出した。

土坑計測表

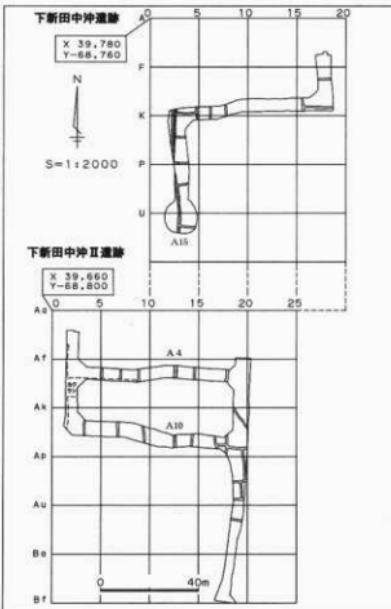
No	所在グリッド	長径	短径	深さ	形状
1	Am・An-12・13	1.00	0.67	0.33	楕円形
2	Al-18	0.77	0.52	0.16	楕円形

VI まとめ

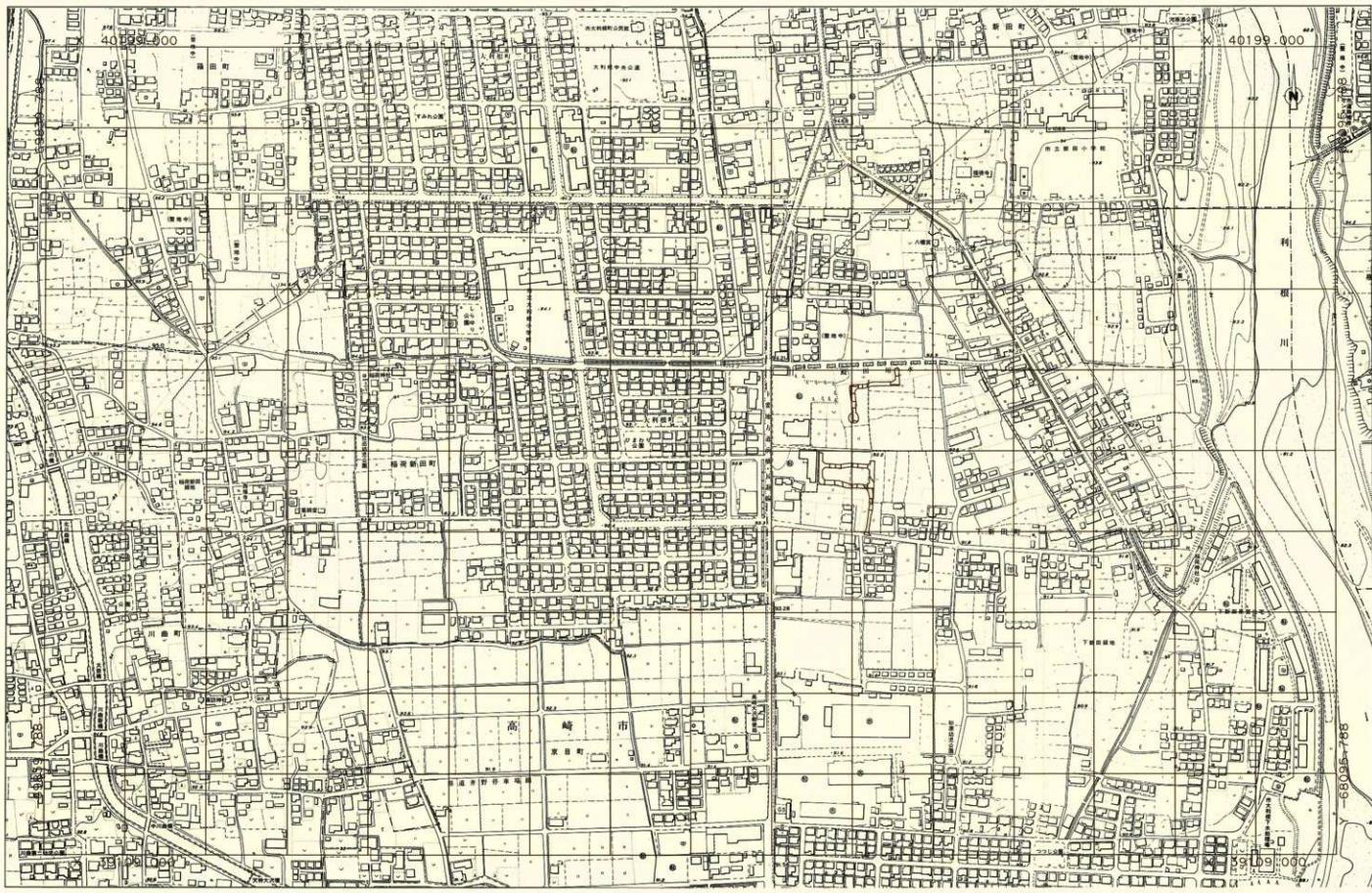
- 検出した水田は、西側1区から東方に2・3・4区と連なっている。西側1区の標高は91.45m、東側4区の標高は91.00mで、この間の距離は約75mであり勾配 6/1000で緩やかに東方に傾斜した地形であることがわかる。
- 検出した22面の水田跡は、調査区域が細長平面のため、いずれも部分的検出で区画の形状判定は難しい。しかし、14・15・17号から20号水田にかかる畦畔の交点状況から方形区画を基本としていることが窺える。
- 水田規模は、部分的な水田のため計測不能である。
- 1区から4区を通じ水田面は、起伏が少ない状態である。小穴や足跡が見られるが、その連続性や方向性を確認できる明瞭な跡はなかった。検出した水田22面の内7号水田と16号水田はやや湿地状を呈し、この水田面だけに人や牛馬の足跡が重複して列状に南北に続いている。このような足跡は、稻の生育期間中の水田作業では見られない特異な状態である。これに類似した足跡の痕跡は、およそ100m北にある中沖遺跡の4号水田内でも検出されている。(中沖I・J-9グリッド付近)
- 畦畔の交点は、6個所確認できたがすべてT字状に交差している。
- 水口は、概ね畦畔交点付近に確認されることが多いが、当遺跡では畦畔交点部分が少なく検出されなかった。

7. 大畦畔(坪境)について

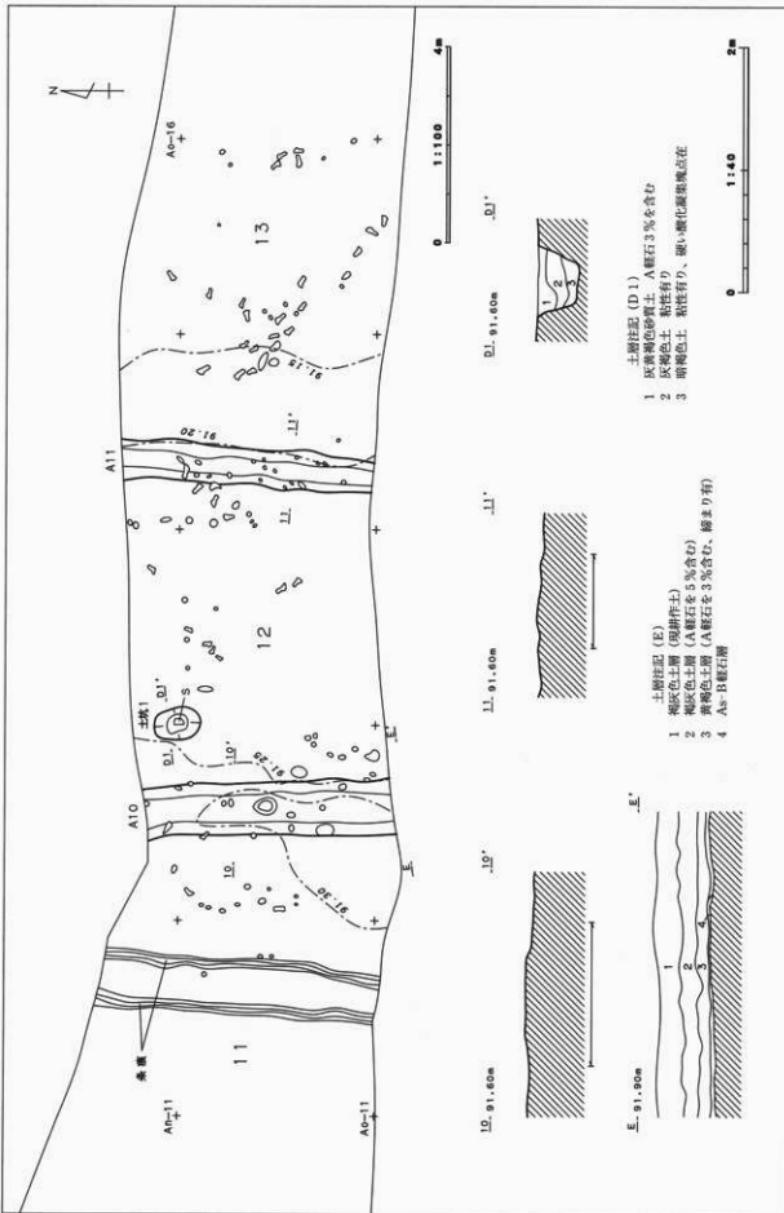
- 4号畦畔の中心座標値(X 39,634.733m・Y -68,749.439m)と10号畦畔の中心座標値(X 39,606.233m・Y -68,749.439m)を結ぶ直線は実測の結果、座標北軸から僅か21分程度の東偏でほぼ正位に近いことが判明した。この両畦畔は規模から見て南北の大畦畔と考えられる。両畦畔を延長すると、本遺跡の北約54mにある中沖遺跡で検出された15号畦畔(大畦畔)に連結する。従って中沖遺跡の15号畦畔と本遺跡の4・10号畦畔は、南北の一連の大畦畔と考えられる。(第6図参照)
- その他の南北に走行する畦畔はこの大畦畔と平行しておりこの地域の地割りに大きく影響していたものと考えられる。
- 段田用水の南側及び本遺跡北に接する幅員約2mの現在の馬入れ道付近に東西の大畦畔が存在する可能性があり、さらに県道前橋・長瀬線付近には南北の大畦畔が存在する可能性があると考えられる。(第7図参照)
- 今回の調査では東西方向の大畦畔は検出できなかったが、本遺跡は条里制の名残をとどめていると考えられる。

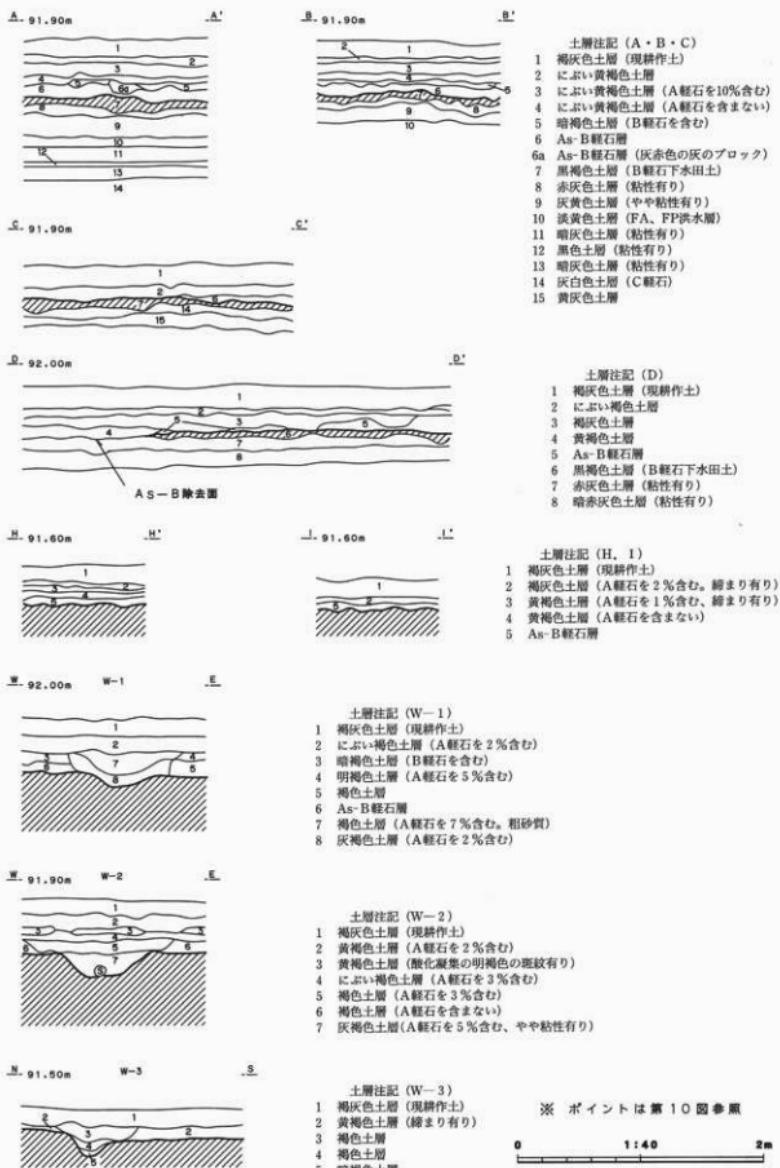


第6図 大畦畔検討図

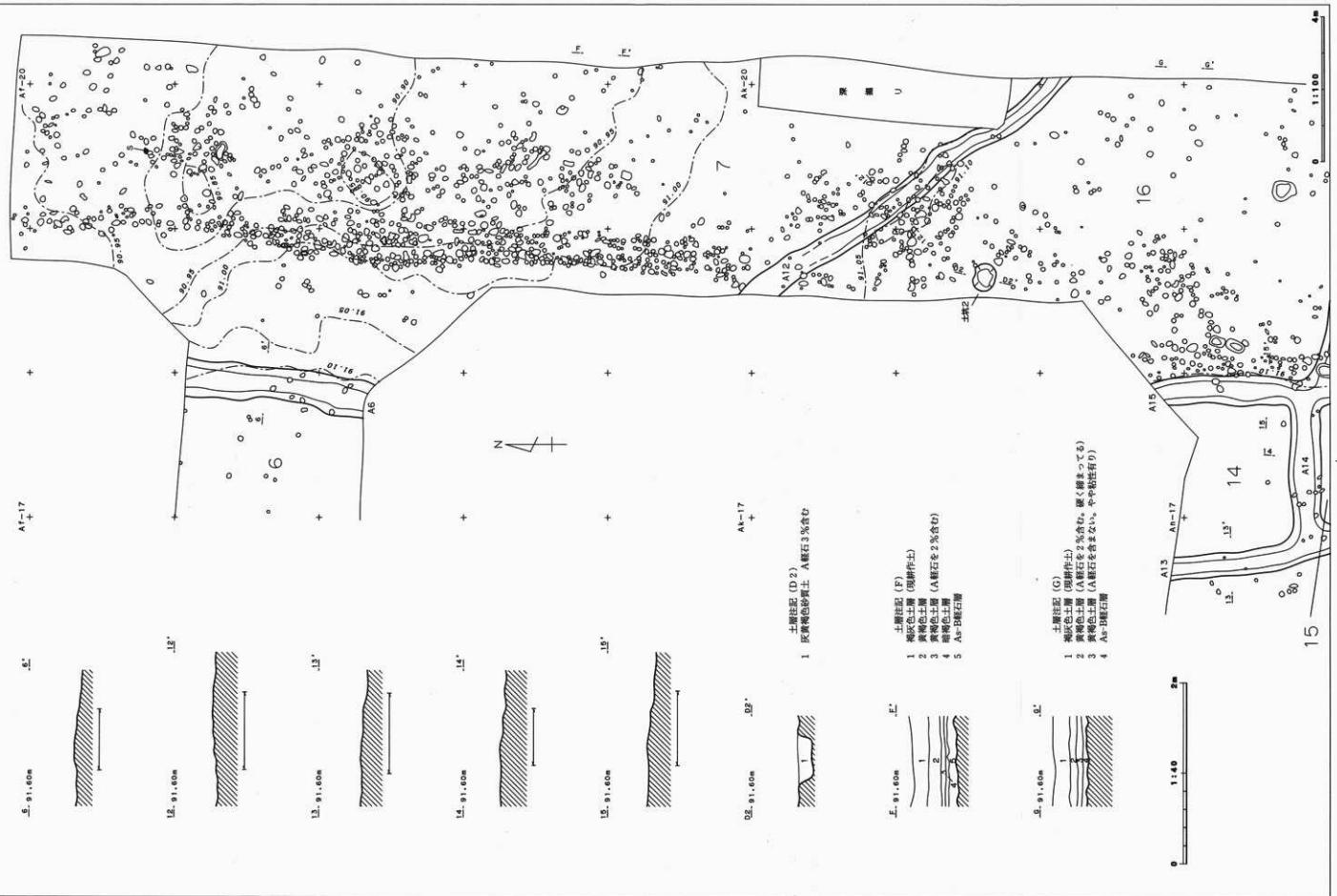


第7図 現況図(109m方格)



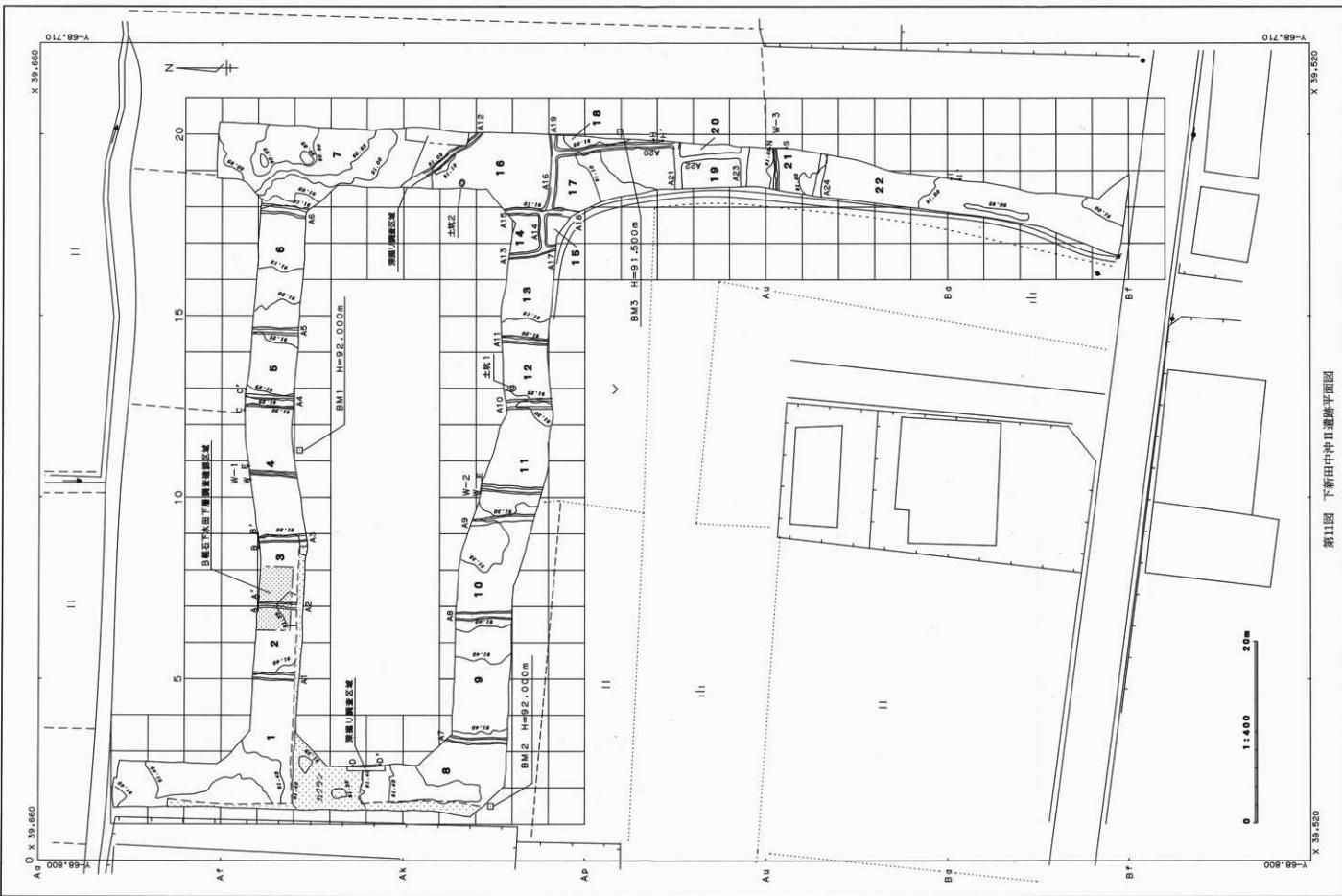


第9図 セクション・エレベーション図



第10图 6・7・14-16号水田測圖

14.



第11图 下新田中冲山灌渠平面图

図版 I



調査前現況（南から）



1区全景（南から）



2・3区全景（東から）



4区南部分（東から）

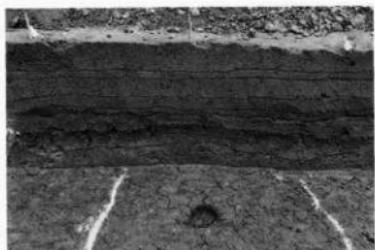


4区全景（南から）



4区全景（北から）

図版 2



2号畦畔の断面



列状の足跡（7号水田）



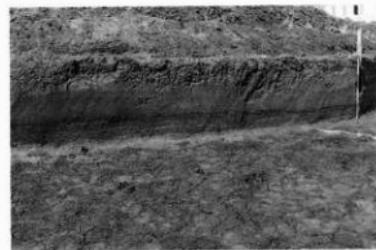
4号畦畔（大畦畔）



10号畦畔（大畦畔）



畦畔の交差状況



As-Bの堆積状況（4区北側）



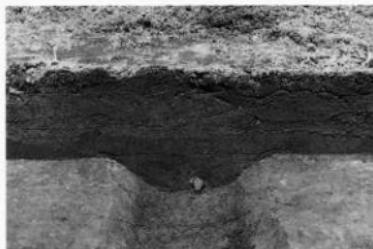
As-Bの除去地（Aj-k-2グリッド）



同左 壁セクション



溝1 (W-1)



溝2 (W-2)



溝3 (W-3)



土坑1 (D-1)



第2面確認調査区域



同左 精査面



深掘りセクション (南部分)



作業風景

抄 錄

フ リ ガ ナ	シモシンデンナカオキニイセキ
書 名	下新田中沖II遺跡
副 書 名	民間宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
卷 次	
シ リ 一 ズ	
編 著 者 名	神津芳夫（スナガ環境測設株式会社）
編 集 機 関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編 集 機 関 所 在 地	〒371-0007 群馬県前橋市上泉町664番地の4
發 行 年 月 日	西暦1998年7月10日

フ リ ガ ナ 所収遺跡名	フ リ ガ ナ 所 在 地	コ 一 ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 綏			
シモシンデンナカオキニイセキ 下新田中沖II遺跡	前橋市下新田町	10201	10A-83	36°21'16"	139°04'03"	19980406 19980515	1485m ²	宅地開発

所収遺跡名	種 别	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物	特記事項
下新田中沖II遺跡	水 田 跡	平安 時 代	水田跡22面	土師器片・陶器片	な し

参 考 文 献

- 「五反田遺跡」 1987 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 「五反田II遺跡」 1995 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 「六供下堂木II遺跡」 1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 「宮地中田遺跡」 1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 「大沢遺跡」 1997 高崎市遺跡調査会

下新田中沖II遺跡

平成10年7月6日 印刷

平成10年7月10日 発行

発 行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市上泉町664番地の4

編 集 スナガ環境測設株式会社

前橋市青柳町211番地の1

